

更に一言す

井上哲次郎

ちよつと日本紀のみならず續日本紀も同じことでありますが、漢字を使ふのは餘程注意したと云ことは私も考へるのであります。出来るだけ注意したやうでありますけれども、注意してもどうしても其頃日本語の意味を能く漢字で現はせないことがあるし、又少し似て居つても正確に當て箝らぬやうな字がある。例へば支那には牧すと云ふ字を使つてをる、管子の眞先きには牧民編と云ふものがあります。あゝ云ふ牛羊を飼ふやうな意味は日本の皇室に於かせられては決してなかつた、民のことは日本で大御寶と云ふ言葉で云表はしてをるが牧の如き者は日本に無い、又「カミ」と云ふ支那の神の字は稻妻(電)と云ふことであります。今日は殷代の文字が段々知れて來まして一層それが能く分つて來た。神は文字から見ると稻妻のことであつて「カミ」と云ふ字の神の字の旁は電氣の電の字の兩冠りの無いのと同じである、尾があつて説文では稻妻の形になつて居ります、天から稻妻を引いて來た形を現はす。日本の「カミ」と云ふ考は稻妻のみではないのですから神と云ふ字が第一當て箝らぬ。それで日本の歴史は日本の音で讀んだ方が宜いのであります。

そこで本居が古事記の方を重んずると云ふのは無理なことをしなかつた所にある。唯本居は無暗に古事記を擧げた爲に公平を失ひ過ぎたやうな所があつて日本紀を輕んじたやうな傾向はある。

それから最前の河野さんの御考であります、あれから以上は人々の考次第でありますから如何ともすること能はずであります、日本の「しらす」ですが、之は領土には際限のないと云ふことを意味する譯ではない、現に大八州國御宇シロシメスとちやんと朝廷で編纂された其頃の法典にもあつて、續紀の宣命アキツカミトオヤシに「現神八州御宇マタニシロシメスといふやうに範圍がちやんと極めてある。尤も「しらす」と云ふことは成るべく廣く解釋した方が宜いけれども、ちやんと大八州と範圍があつて不定の考は決してなからうと思ふ。「うしはく」は範圍があつて「しらす」の方は範圍が無いと見るとしても範圍が無いと云ふことだけでは「しらす」の意味ではない唯擴がりだけの意味で内容實質の意味が缺乏して居るのでは「しらす」の眞意味ではない、言葉はその中の内容實質のことを考へなければならぬ。日本の古來の精神は世界統一の精神迄傳へて來て居ると言ひたいのであります、其方から言ふと河野さんの際りないと云ふことは都合は好いけれども、併ながらさう云ふ廣い意味を「しらす」にくつ付けても内容をはつきり付けなくては決して「しらす」の意味を十分言ひ現はしたものではない。兎に角日本の「しらす」は非常に攻究を要するもので決して簡單なことで盡きない問題であらうと私は思ふのであります。